

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいある石山		
所在地	札幌市南区石山2条4丁目1-50 電話： 011-299-8071		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】 (平成20年 10月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年2月12日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	23 人 常勤 9人, 非常勤 14人, 常勤換算 11.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1、2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円 36,000円(生活保護世帯)	その他の経費(月額)	光熱水費: 16,000円 暖房費(11~3月): 10,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃1か月分) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要 (10月 14日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 81.2 歳	最低 61 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原クリニック・さくら歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あいある石山」は、地下鉄真駒内駅から少し奥まった自然豊かな場所で、新緑や紅葉などの四季の移り変わりを身近に感じる事が出来る環境に位置している。代表者は年老いた親族が落ち着いて暮らせる場所の必要性和、地域の年老いた人々が困っている思いを汲み取り、当グループホームを設立した。管理者をはじめ職員は、理念を基に作成した5つの介護指針のもと、名前の由来の一つでもある「愛のある」ケアに日々取り組み、利用者と接する時間を大切にしている。利用者は、地域の数多くの行事に参加すると共に、個別での外出の機会も多く、日々楽しみを持って生活している。明るい笑顔で会話もはずみ、介護指針にある「笑顔にあふれたホーム」を作りあげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における取り組みは、管理者の交代もあり全体的には不十分であると認識しているが、現状の継続を期待された部分に関しては、取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員に自己評価表を渡して記入して貰い、管理者とホーム長が意見をまとめて作成している。自己評価をする事により、管理者や職員は、日々の介護を見直す良い契機になったと感じており、評価の重要性を認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月毎の開催予定であるが、昨年は定期的に行われていない。職員、家族、町内会長、民生委員、包括職員などの参加により、行事予定と報告、外部評価、地域との交流、スタッフ研修などを議題として取り上げ、参加者との意見交換が行われている。地域行事への誘いも多く、積極的に参加して地域との連携を深めている。今後は運営推進会議の定例化と、地域の災害援助について議題として取り上げていく予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「あいある通信」を発行し、利用者の状況を写真とコメントで家族に報告している。今後は、ホーム便りに個々の利用者の様子を記入して送る事を考えている。提案箱を玄関に設置したり、家族の来訪時には積極的に話しかけをして、希望や不満、率直な意見を聞くようにしている。意見や苦情は、全職員にすぐ報告して話し合い、その都度解決するように努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、お祭りやウォークラリー、スノーフェスティバルなど数々の行事に利用者と一緒に参加している。地域の文化祭には、書道や貼り絵などの利用者の作品を出展して感謝表を貰うなど利用者の励みになっている。児童館の子供達とも紙芝居を見たりゲームするなどの交流もあり、今後は「子供SOS」の登録も予定している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者を尊敬し、楽しく安心して生活できるよう信頼関係をきずきます」と言う理念を基に、職員全員で作成した5つの介護指針の中に「家族と地域との結びつきを大切にします」と掲げている。	○	開設当初の理念と介護指針を基に全職員で話し合い、日々行われている地域との交流を文書化した、地域に密着した事業所独自の理念を作成する事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務所や居間、スタッフルームなど、職員が常に目にする場所に掲示されている。ミーティング時などに施設長や管理者が理念を取り上げて話をしたり、職員が利用者と信頼関係を築く努力をするなど理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭りやウォークラリー、スノーフェスティバルなど数々の行事に参加している。地域の文化祭には、書道や貼り絵などの利用者の作品を出展して感謝表を貰うなど利用者の励みにもなっている。児童館の子供達との交流もあり、今後は「子供SOS」の登録も予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全職員に自己評価表を渡して各自わかる部分を記入して貰い、管理者とホーム長で職員の意見をまとめて作成している。自己評価をする事により、管理者や職員は日々の介護を見直す良い契機になったと感じており、評価の重要性を認識している。	○	前回の外部評価後の取り組みが、積極的に行われていなかったと感じている様なので、今回の外部評価で再度見直しを行い、次回の外部評価に向けて具体的な取り組みが行われる事を、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月毎の開催予定であるが、昨年は定期的に行われていない。職員、家族、町内会長、民生委員、包括職員などの参加により、行事予定と報告、外部評価、地域との交流、スタッフ研修などを議題として取り上げ、参加者の意見交換が行われている。	○	今後は運営推進会議の定例化と、地域の災害援助についても議題に取り上げ、状況を見ながら、利用者も運営推進会議のメンバー加えていく事を、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村との連携の重要性を認識しており、市役所を積極的に訪問して、市町村担当者と連携を深め、病院への送迎に関する事など、事業所の具体的な相談も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「あいある通信」を発行し、利用者の状況を写真とコメントで家族に報告している。領収書、小遣い帳のコピーなど金銭管理については、ホーム便りと一緒に毎月家族に送付している。今後は、ホーム便りに個々の利用者の様子を記入して送る事を考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	提案箱を玄関に設置して、家族などの関係者から気軽に意見が引き出せるようにしている。来訪時には、気軽に話せるような雰囲気作りをして積極的に話しかけたり、希望や意見を聞くようにしている。苦情相談窓口の説明も行っている。	○	今後も積極的な意見を聞いて運営に役立たせたいと言う事で、アンケートなどを行って見たい意向なので、その取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列のグループホームはあるが、職員の定期的な異動は行われていない。管理者も職員の異動による利用者への影響を考え、出来るだけ異動がないように運営者へ意思を伝えている。離職や異動の時は、利用者へ伝えるかどうかは職員判断にまかせている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会などの外部研修に、それぞれの職員の段階に合わせて参加出来るようにしている。研修の参加は勤務扱いとし、受講後は、内部で報告して研修内容を共有するようにしている。新人研修は、管理者が事業所での基本的な事や認知症について研修を行い、その後現場での実習を行っている。</p>	○	<p>内部研修としての外部研修の報告(伝達研修)は行われているが、定例化されていないので、今後は計画的に行い、職員の専門性がより向上する事を期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や地域の研修などで、管理者や職員の交流が行われているが、相互訪問は系列のグループホームに限られており、他のグループホームとの職員の相互訪問や研修などはまだ行われていない。</p>	○	<p>管理者同士の繋がりがあるグループホームとの相互訪問から少しずつ交流を広めて行き、サービスの質の向上を目指す意向なので、その取り組みを期待したい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、家族や可能な限り本人に事業所に来て貰い、お茶を飲んだり、おやつと一緒に食べたり、制作をするなど他の利用者と一緒に過ごして雰囲気や様子を見て貰い、納得してサービスが利用出来る様に工夫している。家族や本人の希望により、体験入所の検討も行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、食器洗いや食器拭き、盛りつけ、洗濯物たたみなどを利用者と一緒にやり、味付けや魚の盛りつけ方などを教えて貰っている。職員は、利用者が孫が生まれた時の事を思い出して喜んだり、夫を亡くした時の事を思い出して泣いている時など一緒に喜び、涙を流すなど、喜怒哀楽を共にしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新規入居の場合は本人や家族から今までの暮らし方について話を聞いているが、本人の思いや意向が表現されず把握が難しい場合は居室で話をしたり、1対1で外出することで信頼関係を築くことを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、センター方式（今までの生活の様子や生活歴などを把握するための専門の用紙）を使って本人、家族から聞き取りをし、情報収集をしている。家族が記入可能な用紙については依頼をし、担当職員が取りまとめ職員会議で検討を重ね、介護計画を作成している。介護計画書は家族に送付し確認を得ている。	○	介護計画は、利用者自身の計画であるので一人ひとりの心身の状況に応じて介護計画を説明することができるよう、期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎に定期的に見直しを行っているが急激な体重減少や精神症状の変化などの緊急時には、その都度見直しを行い修正をしている。退院後は2週間の暫定介護計画を作成し状況を把握してから1ヶ月の計画に移行している。定期的に見直しを行った介護計画は、家族に送付しているが、修正した計画は送付するまでには至っていない。	○	今後は、定期的な見直し期間を短縮すると共に、現状に即した新たな介護計画が作成された場合は、家族に送付し確認を得ることができるよう、期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、2週間に1回の訪問往診、週2,3回の訪問看護を受け健康管理を行っている。医療機関の変更は、本人、家族の不安が大きいのでかかりつけ医と事業所との連携を図るよう務めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の6割程が、かかりつけ医に通院している。受診は家族対応を依頼しているが、他区のかかりつけ医に、事業所の車で、家族と共に受診の支援を行うこともある。かかりつけ医の受診支援を継続していくために、現在市役所の担当者とは相談しているところである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合や終末期の対応に係わる指針と同意」に関する書面を入居時に取り交わしている。書面では、その状況時に話し合うことになっており、事業所としては現時点での看取りの経験はない。	○	重度化した場合や終末期において、具体的にどのような医療、介護が必要となるのか、事業所としてどこまで対応が可能であるのかを早い段階で本人、家族、医療機関と事業所が話し合うことで、方針を共有することができるよう、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	命令口調や侮蔑的な言葉、「～ちゃん」という呼びかけをしないなど言葉かけに配慮をしている。利用者の生活歴から本人に馴染みのある「先生」という言葉かけをしている場合もある。個人情報は事務所で保管し第三者の目に触れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが体調やその時の気分によって柔軟に対応している。生活リズムを整えることが難しい利用者の場合は環境を整えることで、その人らしい生活ができるよう支援している。野菜や花畑の手入れ、手紙を書く、音楽を聴くなど本人のペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成は業者に委託しているが、食事検討会議で職員が利用者の視点で見直しを行い、献立に反映させている。建物の裏手にある雑木林に面した庭でバーベキューをすることもある。食後は一人ひとりが食堂のカウンターにお盆を運び、後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は固定しておらず少なくとも週2回は入浴できるようにしているが、無理強いして人間関係を壊さないよう配慮している。入浴への不安が強い利用者には、家族の協力を得て自宅で入浴することで、事業所での入浴が可能となったことがある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や本人、家族の話から一人ひとりの役割や楽しみごとを把握し「～さんにはこれをお願いしよう」と言葉かけをしている。ぬり絵や編み物、書道、大型ごみの分解等をしている。ペンキや鎌等希望の品を購入し、日曜大工や草むしりが出来る様に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣のレストランでバイキング料理を楽しんだり、ビアガーデンに行ったり小樽へお寿司を食べに出かけたりしている。冬季はスノーフェスティバルや大型商業施設に出かけ、屋内での生活に偏らないよう日常的な外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常生活のケアを通して一人ひとりの様子を把握しているので、日中は施錠していない。廊下の突き当たりに玄関があるが、その途中にトイレや洗面所があるので、どこに行こうとしているのか、動作を見極め言葉かけをするようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行っている。今年は、夜間を想定し、利用者参加で避難階段やエレベーターを使って訓練を実施した。消防署からは地域の人々の協力を得るように指導を受けており、課題として受け止めている。	○	来年度は地域の人々の協力を得ながら避難訓練を実施していきたい意向なので、その実現に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	セルフサービス方式で飲めるようにフロアに温かいものと冷たい2種類の番茶を用意している。三食に含まれる水分量を900ccとして食事、水分量の記録を行い不足傾向にある場合は調理形態を工夫したり、ゼリー等で補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓から、隣接しているお寺の境内や林の木々が広がっており、明るい日差しが入っている。1畳分の小上がりが2箇所あり洗濯物を畳んだり、椅子代わりに活用している。また、窓辺の一面には、利用者が育てた観葉植物の鉢が並んでいる。廊下には金魚の水槽があり、壁には手作りのちぎり絵や貼り絵、行事の写真などが飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングの床材でバリアフリーとなっている。居室の引き戸には柄やデザインの異なる暖簾がかかっており、大きなクローゼットが備え付けられている。自宅で使用していた仏壇や筆筒、テーブル、椅子などを持ってきている利用者もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。